

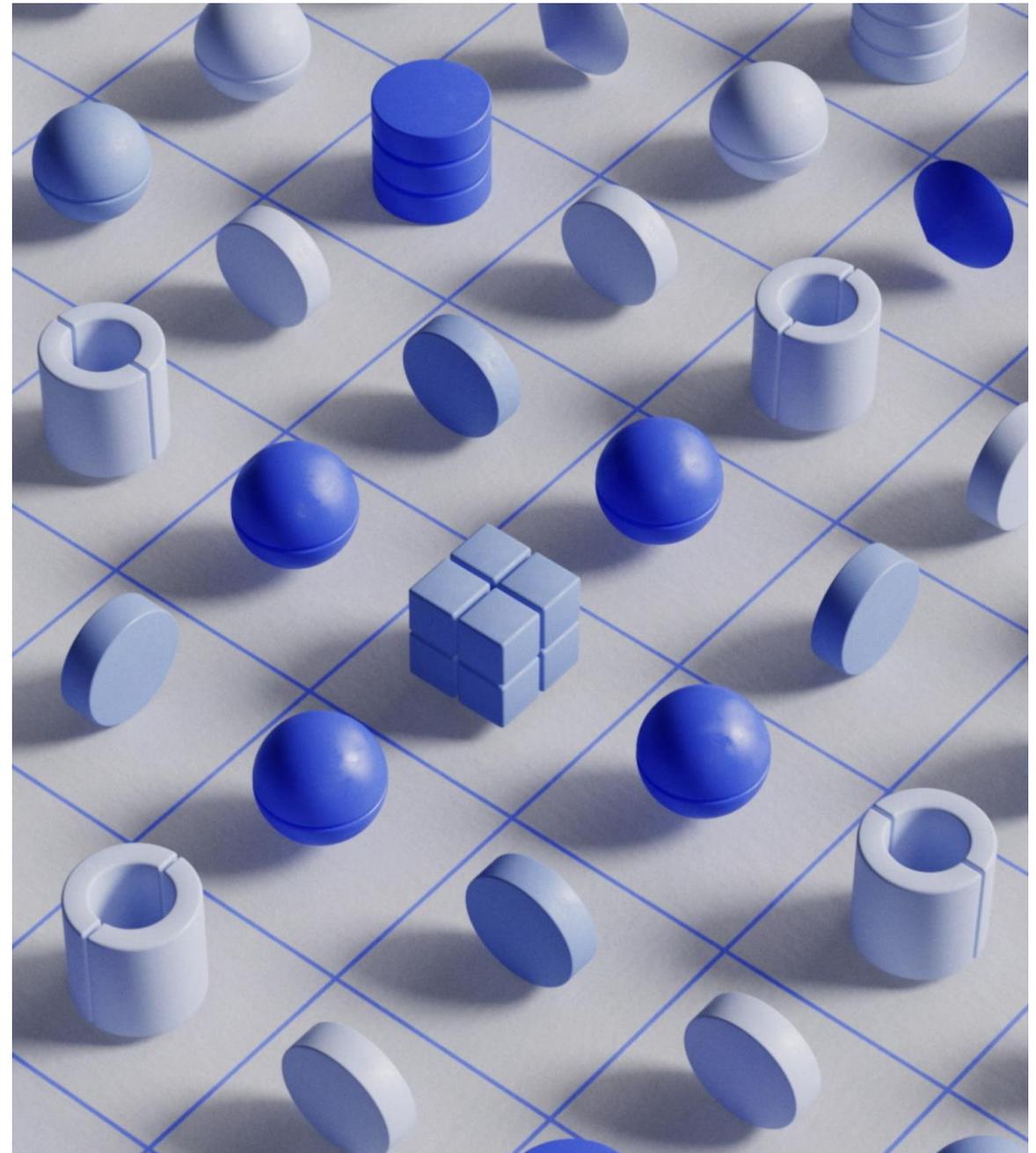
アプリケーションセン トリックなSaaSベ スネットワークの提案

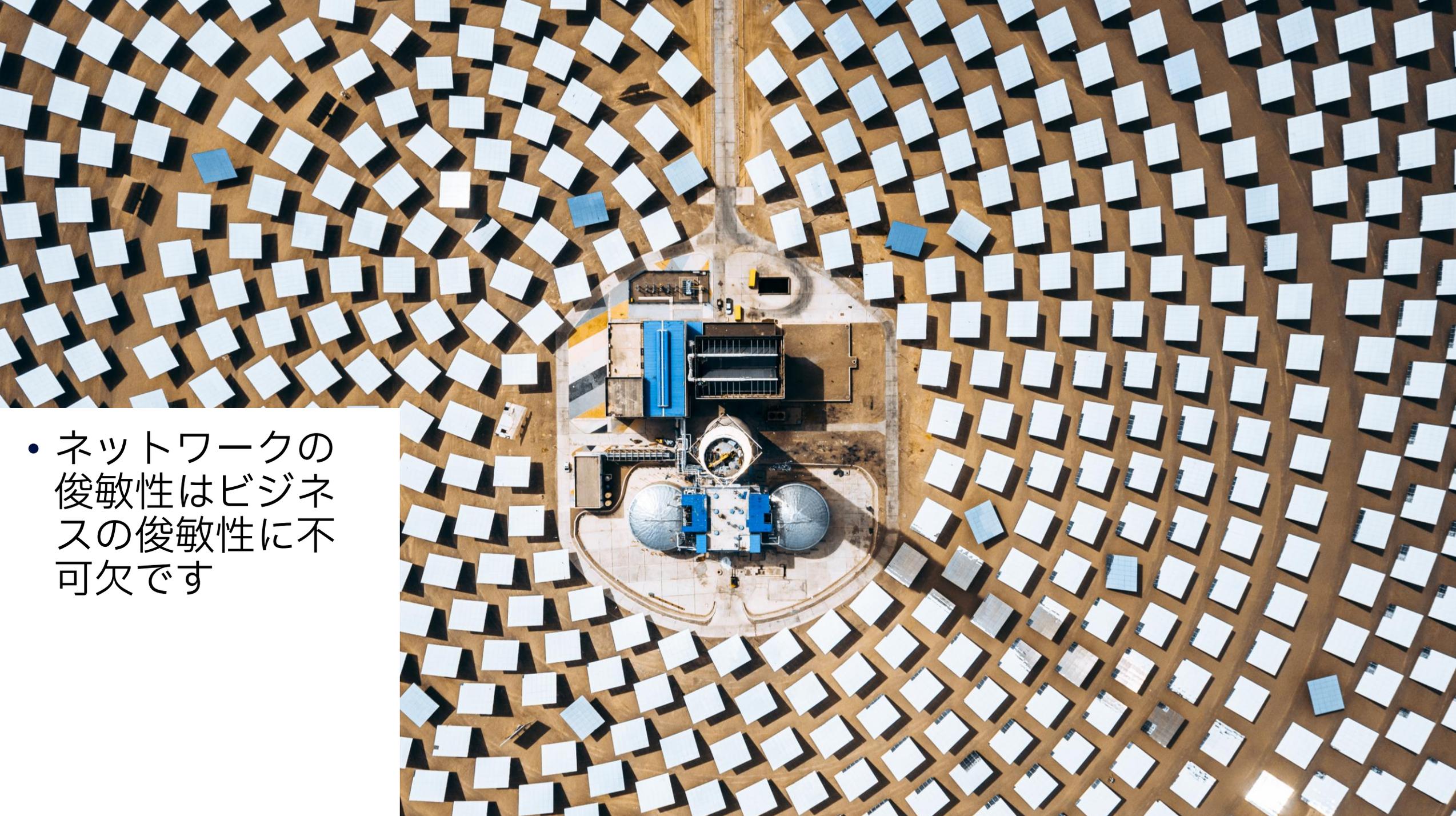
日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェアネットワークングビジネスユニット
シニアGTMプロダクトマネージャー

長谷川幹夫

Mikio.Hasegawa1@ibm.com

MPLS JAPAN MPLS Japan 2023





- ネットワークの俊敏性はビジネスの俊敏性に不可欠です

障壁

デジタルトランスフォーメーションには障壁があります

技術障壁

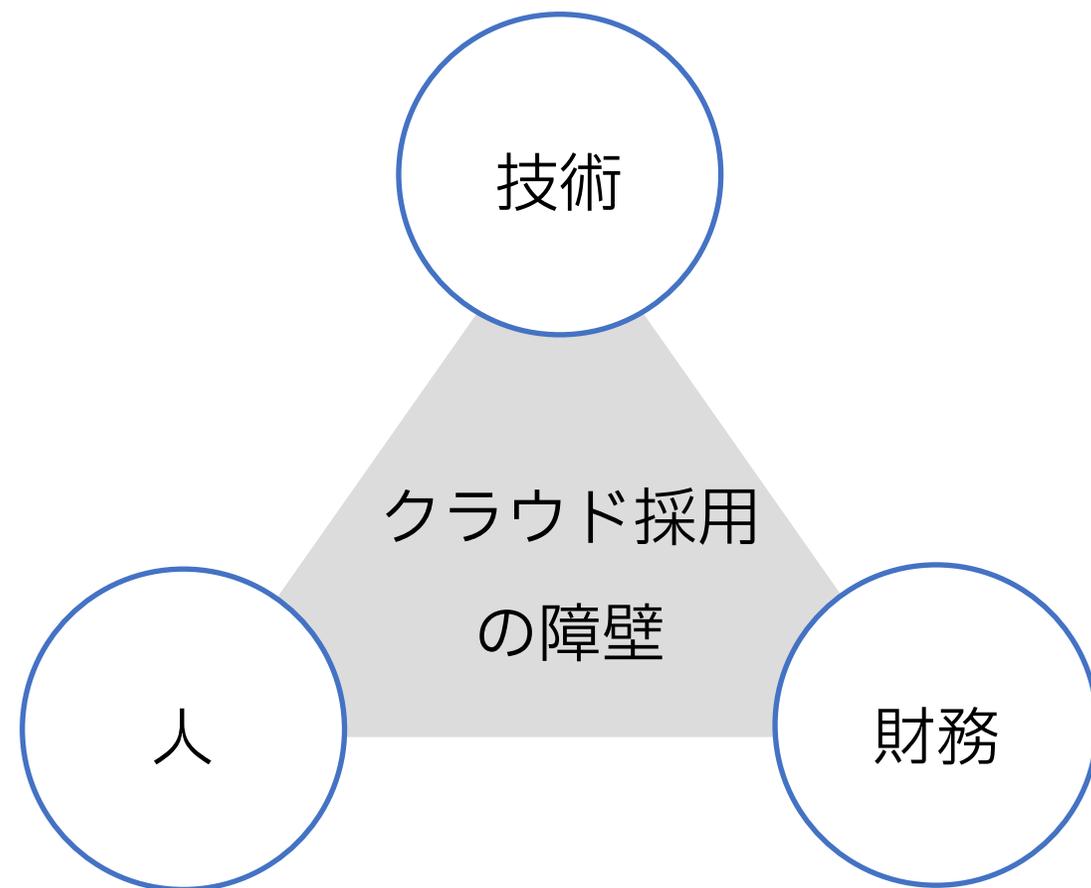
- 技術的な複雑さ
- 貧弱な可観測性
- 低下するコントロール
- 増加するセキュリティーリスク

人的障壁

- 不明瞭な役割
- 増加する複雑さ、不満と不安

財務障壁

- クラウドコストの限定された可視性
- 予算編成と予測の難しさ



マルチクラウドネットワークがアプリケーションのニーズを最優先したらどうなるでしょうか？

ネットワークとアプリケーションの関係

ネットワーク セントリック

ネットワークとアプリケーションは独立

結果

硬直、安全でない、受け身

機会

ネットワークプロビジョニングの自動化



アプリケーション セントリック

ネットワークはアプリケーションに追随

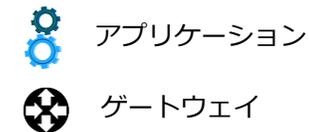
俊敏、安全、積極的な最適化

新たなクラウドリソースとしてのアプリケーション接続

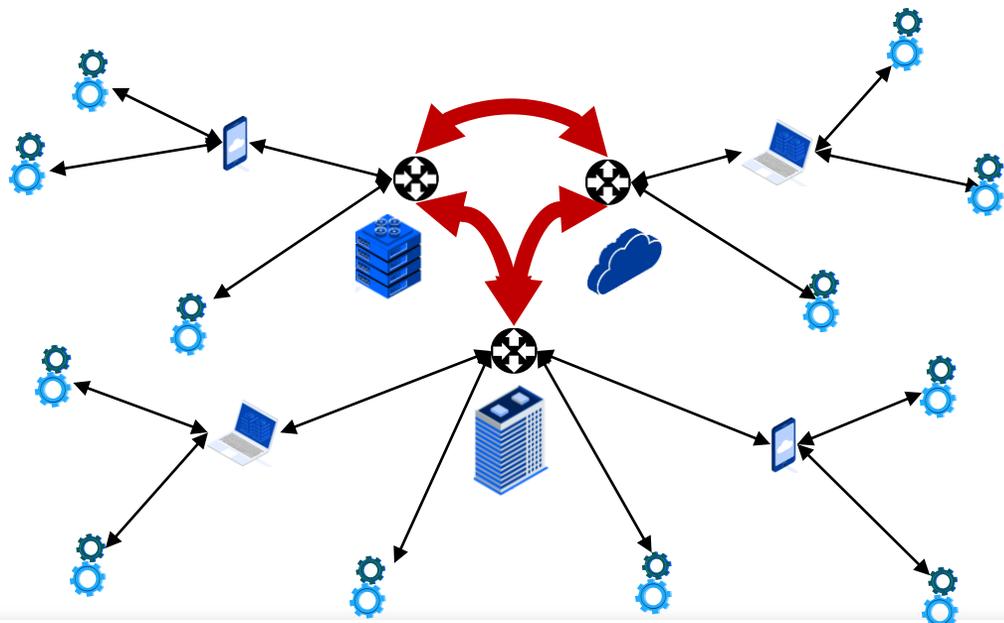
ビジネス価値



アプリケーションセントリックとは

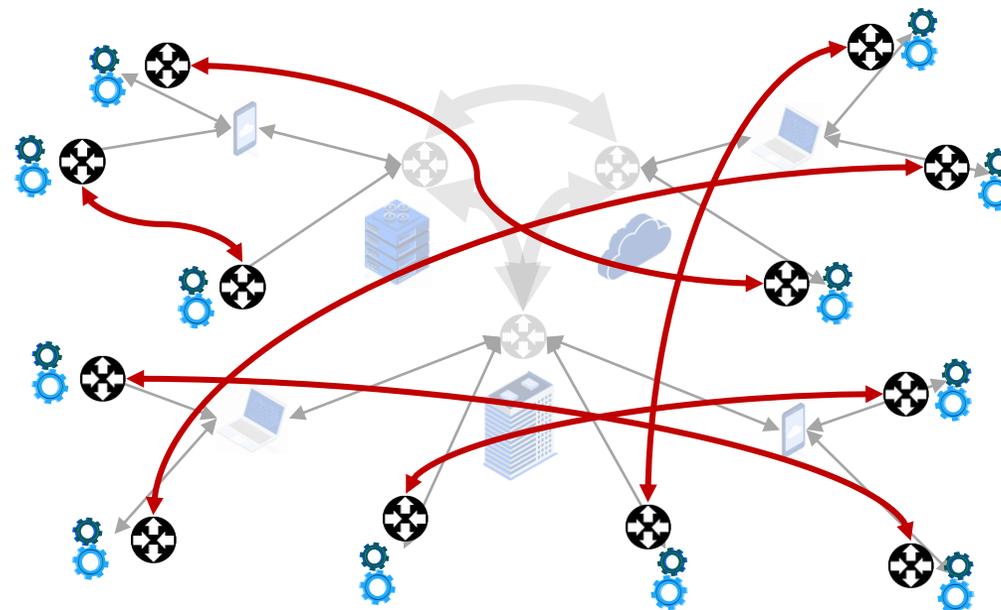


ネットワークセントリック



- アプリケーションを意識しないパケット転送
- セキュリティーはファイアウォール依存
- 限定的なクラウド連携自動化
- 限定的なアプリケーションの可視化

アプリケーションセントリック

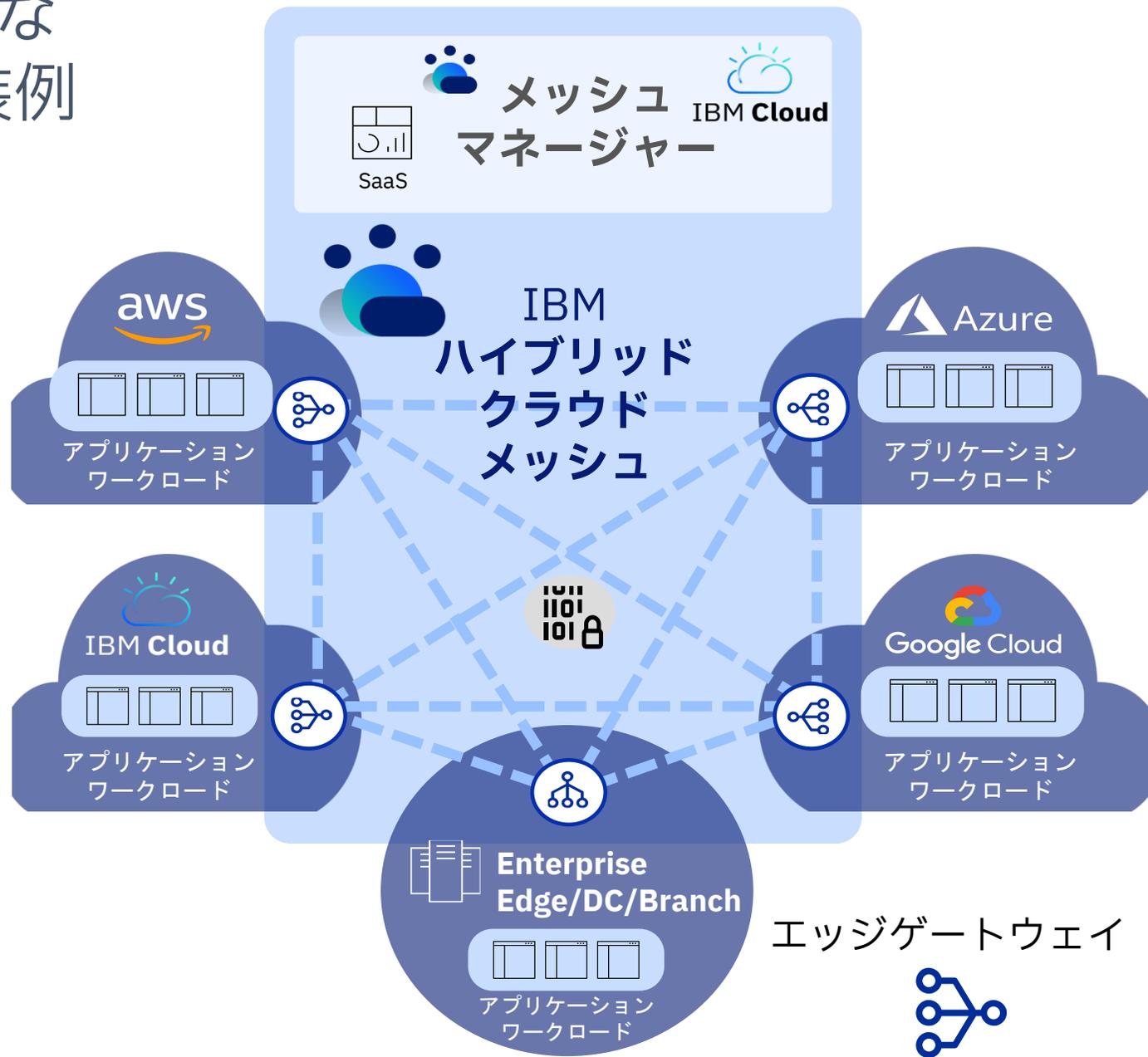


- オーバーレイ接続でアンダーレイ機器を抽象化
- アプリケーション単位に転送を許容
- ゼロトラストアーキテクチャー
- 異CSP間を含む、クラウド設定の自動化を促進

アプリケーションセントリックな SaaSベースネットワークの実装例

アプリケーションの接続手順例

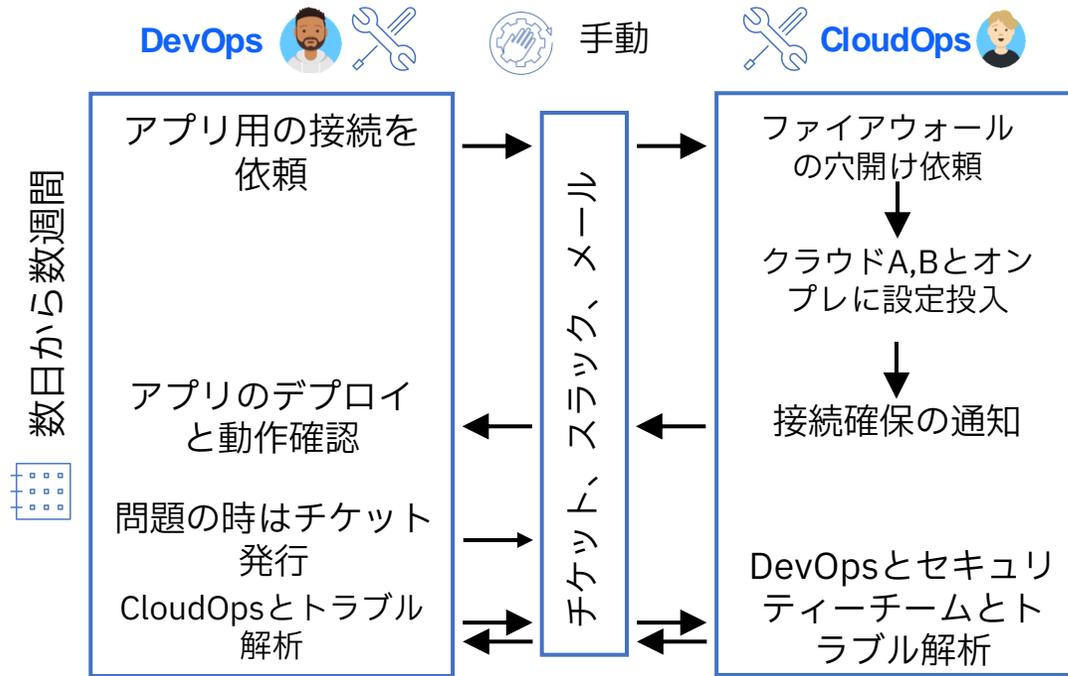
1. メッシュマネージャーがクラウドリソースをディスカバリー
2. メッシュマネージャーはエッジゲートウェイをマルチクラウド/オンプレミスへデプロイ
3. ローカルエッジGWとリモートエッジGW間にトンネル生成
4. エッジGWはネームスペース/アプリをクラウド内でディスカバリーし、メッシュマネージャーを更新
5. エッジGWはローカルのネームとメッシュマネージャー経由でリモートのネームを解決
6. メッシュマネージャーはエッジGWにポリシーを適用（ポリシー例：アプリAとBを接続）



比較 障壁を壊しチームを統合

ネットワークセントリック

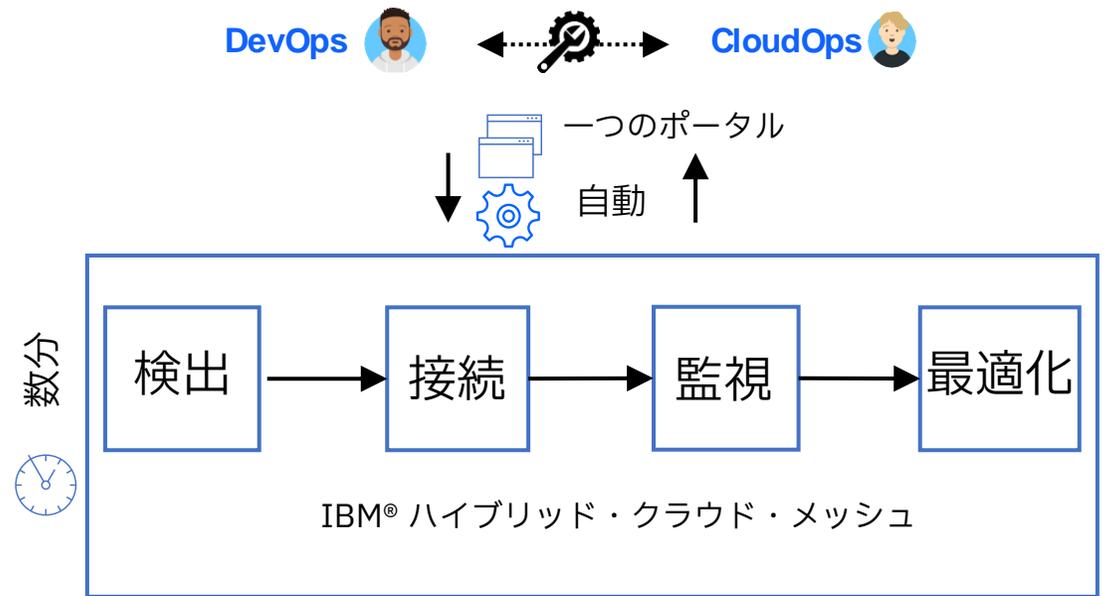
共通のビジネス目標



別々のツール、別々のチーム、別々のプロセス

アプリケーションセントリック

共通のビジネス目標



統一ソリューション、統一チーム、統一プロセス

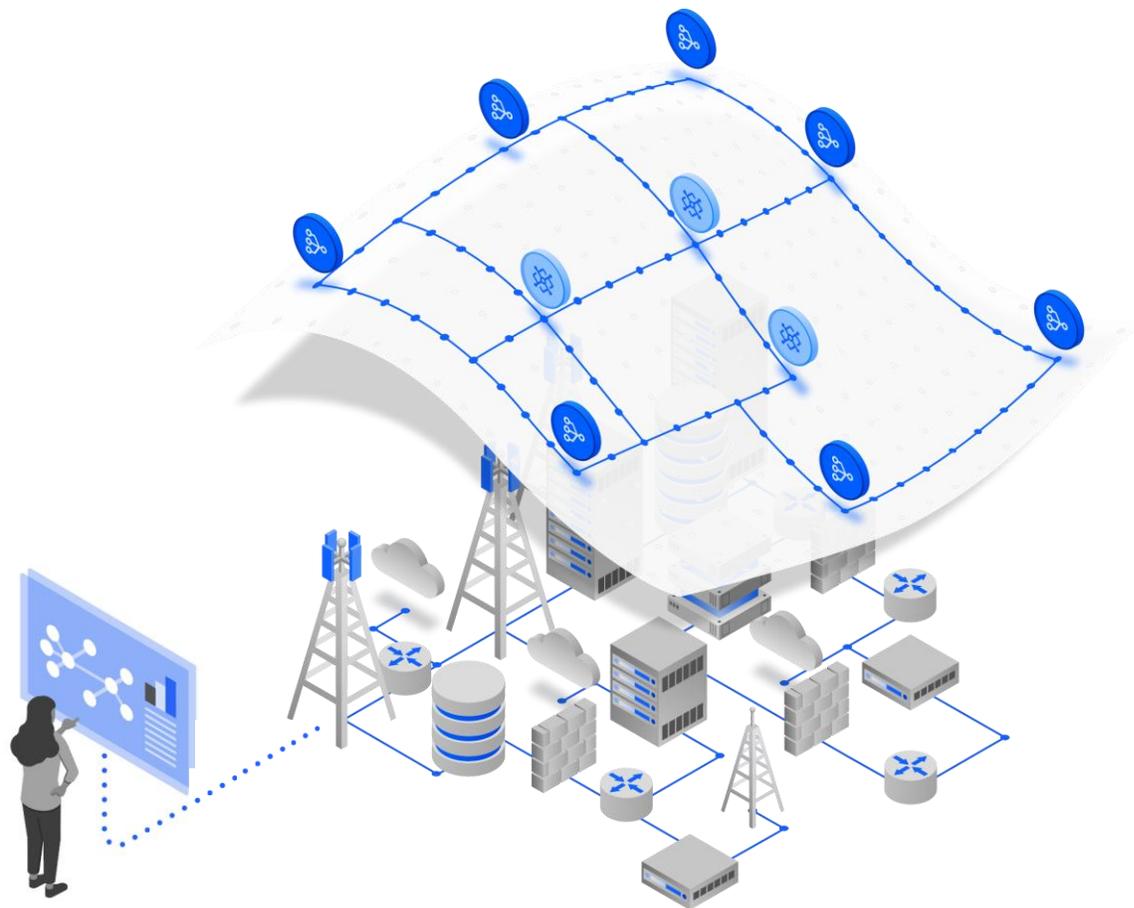
まとめ

アプリケーションセントリックなSaaSベースネットワーク

アプリケーションセントリックなネットワーク導入によるビジネス俊敏性の向上

マルチクラウド、エッジ、オンプレミスに分散されたアプリケーションの簡単な操作による接続

DevOpsとCloudOpsチームの協調を促進



IBMハイブリッド・クラウド・メッシュのコミュニティへの参加お待ちしております

本公演資料は、発表者によって準備され、それぞれ独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる参加者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではありません。またIBM製品やサービスがお客様に適用ある特定の法令に適合することを保証するものでもありません。本講演資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努めておりますが、「現状のまま」提供され、明示または黙示にかかわらず、商業性、特定の目的への適合性、非侵害性を含め、いかなる保証も伴わないものとします。本講演資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本講演資料で言及されるIBM製品、プログラム、またはサービスは、IBMがビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。本講演資料で言及される将来の展望（製品リリース日付や製品機能を含む）は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、将来の製品または機能が使用可能になること、もしくは特定の結果を確約することを意図するものではありません。本講演資料は、言及されるIBM製品またはサービスに適用ある契約条件を変更するものでも、追加の表明または保証を意図するものでもありません。

本講演資料に含まれている内容は、参加者の活動によって特定の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、IBM Cloud は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

AWSは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

Microsoft、Azureは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Google Cloud は、Google LLCの商標です。